



サカタニ友の会ニュース

# 京・東山が動く

## 京都国立博物館 平成知新館

9月13日(土) オープン



平成知新館  
2014年9月13日  
オープン!

上の写真は、平成21年3月から工事中だった前の常設館に代わる「平成知新館」。建設には約6年余り要して完成。設計は、一ノ宮

久近代美術新館・東京国立博物館・法隆寺宝物館とを手掛けた世界的な建築家、谷口吉生が監督。日本的な空間構成を取り入れた直線的な美しさを持ち、地上3階展示室部分の展示面積は、従来の2倍の広さに拡張。また13の展示室では、絵画・書跡彫刻工芸考古の各分野でテーマを設け、収蔵品が紹介される。博物館HP参考・転載使用した

「この博物館の敷地西側は(大和大路通)豊臣秀吉公が建てた京大仏殿跡地で、境界の石垣は、関白秀吉公が支配配下の各大名に寄進を命じ「巨石」を集め造られたもので、現在も残っている。その石垣は、博物館正門より北にあり豊国神社を越えてある。最北端の巨石は(写真有)、中央に白線が入っている。石を献上したのは秀吉公の盟友、後に加賀百万石の大名になった前田利家と言われ、巨石の探索や運搬の費用に泣いたので、石も泣き線が入り前田公の涙石」との名がつけられた。京大仏士不思議に残っている。

その石は止門を北余きで五分とがからない所にある。途中に豊国神社には「国宝の伏見城の御門」。神社の西には朝鮮の役で殺した朝鮮兵士の耳を埋めたと伝えられる耳塚もある。以上のようには、通常上のようには、通常の他のページに掲載するのだが、実はお帰りに是非「北へ来て欲しい。特に13日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日」の各日、そのあたりで開く。そのアトに出店「純米清酒 美し鴨川 720 000 0円」特別純米酒「西陣 720 000 0円」(何れも佐々木酒造醸)を販売する。また、同ブースで平安陶花園様が伝統工芸士の伊藤南山作くいの「呑み」を販売される。くいの呑みをお買



「太閤まつり」との名のイベントをそのあたりで開く。そのアトに出店「純米清酒 美し鴨川 720 000 0円」特別純米酒「西陣 720 000 0円」(何れも佐々木酒造醸)を販売する。また、同ブースで平安陶花園様が伝統工芸士の伊藤南山作くいの「呑み」を販売される。くいの呑みをお買

「呑み」を販売される。くいの呑みをお買

発行者  
株式会社サカタニ  
集西楽・サカタニ  
ファミリーマート  
サカタニ京阪七条店  
〒605-0993 京・  
東山区七条こころ坂下  
・075-561-7974  
URL: www.sosake.jp/  
E-MAIL: info@sosake.jp  
毎月発行の  
会員新聞です  
編集・酒谷義郎

## 開催日:8月24日(定例第3日曜日:朝9時~) 第115回 朝粥食べて・おシャベリ



朝粥食べておシャベリ会... 恒例・食前のお話... お題・文化財に魅せられて

「京都の文化財を守る会」の前会長の笹池正一さん。御年84歳。文化財の虜になつた理由は紡績機械の設計を担



「京都の文化財を守る会」を作られたそうです。京都の民間の団体で息の長いのは「鴨川を美しくす

い上げの方に、お酒の試飲サービスがあるかも... 京都博物館に続いて、鴨川東岸正面元直教小学校跡地を京都美術工芸大学が近々使用されると、京都市立美大が崇仁小学校の跡地を含めた地区に移転が確定している。天仏殿「建造で大きく変化した」の地域、再び動くか! たなかから

る会」と並んで双壁のことです。京都には全国の重要文化財国宝の20%があるそうで、その中からたくさんの方にエピソードや名所や仏像をご紹介した

「地元なので、いつでも行ける」という理由で、京都に住んでいる方が意外と京都の文化財に触れずに過ごしていることも多い。京都を見直す行動をしてみませんか」という言葉で講演を締めくくられた。文化財への愛があふれるお話満載で、客席からは紹介された寺院、境内にちよつと寄つてみようという声があちこちから出ていました。

鴨川を美しくする会の応援酒

【京都の地産】  
佐々木酒造  
美しい鴨川 純米 一升瓶

「美しい鴨川」は京都酒造組合の共同銘柄で、鴨川の伏流水に感謝して、先上の一割を「鴨川を美しくする会」に寄付しています。

181・2044円 720mL 1049円  
特別純米酒:西陣 720mL 2000円

### どんつき

広島について 福知山に 集中豪雨による山崩れや水没した地域が出た。死者行方不明も多数あり。お見舞いする。天災と言つが、台風ではない豪雨の一言で片付けて良いのだろうか。今までも豪雨はあった。年に一度程度は。

雨は地上や海の水分が上昇し雲になり、溜まって地上に落ちるもの。日照りの強い夏にそれで夕立が再々あった。でも豪雨でない。集中豪雨が始めて使われたのは日本海の寒冷前線が沖縄付近の台風の吹き込みが重なった昭和28年8月15日南山水城池が決壊し死者が多く出た。その年は和歌山地方も水害で大きな被害を受けた。長い戦争で治山治水事業がお座なりに成つてきたのだらう。

その頃と違って、今は北・南極の氷も解けてきたと聞く。何処か変だ。海の水の温度が上がったのだらう。唐突だが、原因は原発にかも。原発冷却水は海水温度より10度高い温度で放出されている。海水温度が上がれば、蒸発水も多い結果として集中豪雨が頻発するのでは無いだろうか。心配しいの節は思ふ。日本だけでなく、世界中原発を止めないと人類は遠からず滅亡するだらう。僕は居ないが。子や孫の世代が困るだらう。



# ヨシちゃんのと ひとりごと



その上、交通の環境もよくなり、新住宅が増えた。

## お施餓鬼

### お墓参り

我が家は、曾祖父の代まで宇治の山里・笠取村字炭山に住んでいた。そこは伏見区日野から山道のさらに奥、日野に庵を構えた鴨長明も岩間寺に行く時に炭山笠取を通っていたと方丈記に書いている。



その炭山の「称名寺」で毎年「盆」に、お施餓鬼が開かれる。私は小学校二年生の時、祖父に連れられて始めてお参りした。山道を歩きながら、「ワジがいた朝20頃はお寺が学校だった。義郎は14代目の跡取りだからお施餓鬼とお墓参りは必ず炭山へ」と言いつけた。戦時中、学童だった私は、その村の親戚に疎開した。

終戦直後に祖父が、さらに祖母、父も没し、村の先祖代々の墓に納めた。その村から、京・大阪等へ移住した人も先祖の墓はその地に残り、「お施餓鬼」にお参りに来られていた。村は宇治市炭山になり、電気が通じ(昭24?)、そして道路も自動車を通れるようになって。都会に転出が続き、人口が減っていた村に、京都市内で、「登り窯」が使えなくなつて清水焼の陶芸家が東山から多数移住してきた。

私が疎開時し通学した「笠取第二国民学校」は二教室の複式授業だった。場所は一緒だが今は拡張され「鉄筋コンクリート」の校舎教室、校庭も広い。生徒数も増加しているようだ。

私は、祖父の言葉を守つて毎年墓参りと「施餓鬼」には殆ど欠かさず参加し、京都や大阪へ移住した方々のご子孫の方々と、お墓でお会いした。でも、年々減つて、今年はお越しになつたお方は少なかった。また、その方々のお墓も他所に移されたのかボチボチ減つて、村に住む人以外のお墓は少なくなつていた。山中腹にある墓地で不便ではあるが、親戚でお参りの深い方も有つて、お参りしていただお墓が無くなつていくと縁が切れたような切ない気分になつた。(老いたなあ)

**序で話** 貞教国民学校6年生の(春 昭20) その年1月16日馬町の空襲の所為たろつが京都でも4月から、学童疎開が始まつた。学友の多くは集団で北桑田郡平屋村(現・美山町)へ、超身体の弱い子で有つた私は、皆とは別に、曾祖父まで住んでいた炭山の親戚に預けられた。



当時は電気がない村で夜のランプの灯がつけられると家族や友達のこと思い出し寂しくて便所で泣いた。子供時代から新聞を読むのが好きだつたので、二日毎に纏めては配達される新聞を待ちわびる姿を見られて「この子は大人みたいな子や」と笑われた。

学校は村から遠く、炭山・二尾(にのこ)と池尾(いけのこ)の三ヶ村の子供が学んだ。疎開で来た子も含めても全校で60名くらいだった。施餓鬼で今年も高校生一人と会えた。

この辺りの村々は、多分、大名に支配されず「寺領(醍醐寺)だったのだらう。穏やかで平和な村だった。学友同士で喧嘩もなく、虐められることもなかった。

戦時で先生が足りなく臨時に池尾の「尼さん」が来られていた。

## 兵火ではなく 石動散子

### 石動散子

花火大会は、久しぶりだつた。

た。「くまモン」の熊本、天草で。孫を京都から天草のじい婆様のもとに連れていった。その夜、有明海に開かれた牛深の棧橋で。

前の晩、坊やは号泣したという。行かない。行きたくない、と言つて。それまでは、スムーズだった。熊本駅での孫の受け渡ししが波乱含みに思えたので、私も、旅程を変え。天草を再訪し一泊させていた。だくことにした。その宵、坊やは、歓迎の海老御膳を口にしては、ぼろーと涙して、四人の大人たちを、慌てさせた。

花火大会で、おあ、とか、ああと、か体の声を出し切つて、「地獄のそつ



たので、二日毎に纏めては配達される新聞を待ちわびる姿を見られて「この子は大人みたいな子や」と笑われた。

当秋坊主頭だったが、ツルリと光つて見えた。多分禿頭病だったのだと後になり想像する。その先生は「そろばん」を教えられるのだが、授業が終わり退出された途端、昭憲皇太后御歌「金剛石も磨かずば玉の光は沿わざらん」を全員で大声で歌つた。先生は聞こえていたと思うが、全く聞こえてない素振りや職員室に戻つていかれた。子供時代の私はそれを残酷とは思わなかった。

戦後、中学生時代、芥川龍之介の短編小説「鼻」を、池尾の僧、名は禅智



べえ」を読んでやり、休もつかという時に「婆ちゃん、明日帰るよ。猫ちゃん死にそうやし」と伝えた。

よくよく知つているその猫が、老衰とは言え「死」に近いと聞き、「かわいそう」と一緒に涙ぐむ。「でも、猫は死んでも代わりにか生まれくるよ。何に生まれ変わつてくれるかなあ」と話すと少しほつとしたようだった。弟? 妹(男ブトムシ)?

そんなこんなで、納得してくれただか、坊はそれから4週間、天草の暮しを存分に楽しみ、ひとまわり大きく、日焼けして両親のもとに戻つた。明日からは、また幼稚園年長さんだ。猫は、それから一週間は生き、天寿を全つした。大人たちのリレーで、今回は何とかが、乗り切れた格好だが、これが70年前の学童疎開だったら?

内供だった。以来、心の奥で、傍観的自己中心的態度だったと反省している。私そのころ、円形脱毛症になり、「丹波栗タングリ」のあだ名をつけられ、からかわれた。腹の中は怒りで一杯だったが、



私が亡き祖母の言葉「辛抱という棒は数が増えれば増えるほど強くなり折れなくなる」に、したがつて我慢した。頭髪はいつの間にか生え、あだ名は消えた。

どんな試練が小さいみなさんにふりかかり、大人たちも途方に暮れたかと思つた。戦争が、隅々の生存を脅かし、暴力的に奪つたものは数知れないだろつ。



歴史に残りそうなる8月も終わるとし、断腸花(秋海棠)も咲き出した。ただならぬ風雨に災害列島と化し、不安と嘆きは、極限に達する勢いだ。そんな中、秋田は全国の花火競技大会2014をライブで見た。ああ、なんという素晴らしい。それも勿論兵火ではなく、世界の平和を願つてのもの、と思つと、心強かつた。

一度、現地に行つてみたいものだ。途中通過県でしかなかった秋田への思いに灯がともつた。

花火大会で、おあ、とか、ああと、か体の声を出し切つて、「地獄のそつ



# 京都&東山 ぶらりピカリ

52

## 東山区 本町通

ほんまちとあり・  
写真は正面から南向き



本町通は五条通の鴨川東岸の一丁目から稲荷近くの二十二丁目まである通り。そこから南は直達(すじかい) 橋通の名で(伏見区)となり国道2号にもつながっている。伏見街道とも呼ばれる本町通は、天正14年の開通、豊臣秀吉の伏見城築城と「京大仏殿」建立に際して原型が出来て、文禄元年から交通の要衝となり、(伏見板橋小学校内碑通りに沿って) 軒を連ねたこと

に始まります。元の通りは本町9丁目までJR東海道路で分断されて、歩行者用の「跨線歩道橋」 鉄道写真愛好のボイント(つ)ながっています。迂回道路は本町8丁目塩小路から本町10丁目の泉涌寺道にかけて、西側に「新本町通」と呼ぶそうです。昭和30年代までこの辺りの本町は、他所に買い物に行く必要が無いほど五条、正面、南の塩小路までの両側は商店が「ビッシリ」と並び、大きな本町市場もありました。今も塩小路の角にある映画館「本町館」は三番館でしたが良い映画も来て、何度か見に行きました。

その様に殆どのお店がなくなる中、「元禄時代創業・漬物の赤尾屋さん」と「洋食の本町亭」さんと他にも健在な店もあります。

貞教尋常小学校一年入学早々「ジフテリア」で「喉切開手術」で助かった私。その退院を祝ってくれたのが本町亭の「とんかつ」

食べたのが本町亭の「とんかつ」でした。生まれて初つの洋食を経験、世の中にこんなに美味しいものがあると驚きました。本町亭の二代とは立命大へ共に通い、野球で遊んだたのですが先年お亡くなりです。今は奥



写真は「ペアランチ」さん娘さんが「初代の味」を守り続けられ、名前もシンプルな本町亭は通りの西側にあります。

この本町通五条、塩小路間に酒蔵が三つありました。その内の一つは当社裏の「日出盛」、今は伏見に集約され、二つの酒蔵は廃業されました。清水の音羽の滝からの「音羽川」が学区の真ん中を通り、水が良かったのです。旧京都、酒蔵は上京区「出水」も多かったのですが今は佐々木酒造のみです。私は両方の水を飲み比べ

ていますが「東山」の水のほつが「出水」の水より幾分か柔らかく感じました。その音羽川も暗渠になりました。博物館の南に分流があり、幼い頃、沢蟹やヤゴが捕れました。文明文化発展で自然を壊す事が無いようにしたいものです。

# 市電が走った 京都を巡る

43

福田静二



熊野神社前を出た丸太町線

丸太町線は、東山線を渡って西へ向かいます。すぐ左手には、京都大学の学生寮、熊野寮が見えてきます。学生の自主運営による寮で、学生運動の拠点となったところで、運動華やかなりし頃は、建物全体が立て看板やビラで埋め尽くされていきました。現在は改修されたものの、建物そのものは変わらな

らな。当時の雰囲気はまだ残っています。丸太町通北側には、古書店や飲食店もあつて、学生街の延長を感じさせます。

丸太町線は、東山線を渡って西へ向かいます。すぐ左手には、京都大学の学生寮、熊野寮が見えてきます。学生の自主運営による寮で、学生運動の拠点となったところで、運動華やかなりし頃は、建物全体が立て看板やビラで埋め尽くされていきました。現在は改修されたものの、建物そのものは変わらな

らな。当時の雰囲気はまだ残っています。丸太町通北側には、古書店や飲食店もあつて、学生街の延長を感じさせます。そして、まもなく到着するのが

「丸太町新道」の停留所です。新道とは、ここで交差する南北の細い道路ですが、北は京都大学病院

南は琵琶湖疏水に挟まれているため、わずかに二、三百メートルしかありません。目立たない道路名もあつて、丸太町新道の停留所も認知度の低い停留所です。もちろん平日朝に実施の急行運転も通過扱いでした。

そんな停留所も、夏に限っては大いに賑わいを見せていました。まっすぐに南へ行くと、京都踏水会があつて、そこに通つ子どもたちが乗降するのです。丸太町新道には、子どもたち相手の屋台も出て、水泳帰りの子どもが市電を待つ間、買い食いする光景も見られました。

京都踏水会は明治二十九年に、大日本武徳会遊泳部として発足した歴史のある水泳教室で、琵琶湖疏水の夷川ダムに設けられた一角を区切り、疏水の水を使ってプールとしました。オリンピックメダリストなども輩出した名門です。

今から見ると、貧弱な設備でしたが、まだ小学校にプールなどなかった昭和三十、四十年代、子どもたちの水泳教室として、大賑わいを見せました。泳ぎが苦手だった私は、ついに入会することなく、初めて踏水会のプールに入ったのは、中学校の授業の一環で行った時でした。その後、踏水会は疏水北側の室内プールに移り、疏水を



丸太町新道の停留所に到着する丸太町線の市電



雪の日、京大熊野寮の前を  
行く市電

使った天然のプールは姿を消しません。今でも夏休みに水泳教室へ通つ子どもたちはいるもの、送迎バスが完備しており、丸太町新道付近が、夏の時期、子どもたちで満杯になった光景も、すっかり過去の思い出となりました。さて、私は、八月いっぱいサカタ二さんの二階ギャラリーカフェで、「京都七条市電通り」写真展を行ないました。ご来場いただいた皆さまから京都市電の思い出を聞かせていただき、有意義なひと時を持つことができました。お陰を持ちまして、滞りなく会期を終えることができました。皆様、ありがとうございました。

来場の方々に「市電は外周だけでも残せば良かったのに」と声が多く聞けた。ys.

# 酒屋で生きて 生かされて



## 第九十四話 酒と税金

前回は酒屋お米と米屋が激減している。両者は、大蔵省、農林省の庇護を受けて、免許・許可などで業種内競争が抑えられていた。

酒と米は、時の為政者の財布のようなもので、中世から現在の酒税のような壺銭・酒税は、日清・日露・日中・前の戦争まで、政府の財政を支えた。日本の国税収入の殆ど第1位だった。1920年は

酒販売免許の歴史は1657年(明暦3)にさかのぼると言う。近世(1940年(昭15)強制的に廃業を命じられた。祖父は役所からの、廃業通知を届ける役を負っていて、と祖母に愚痴っていた。

我が店も新免許制度で飲み屋と酒屋の併業が禁止、手に入れた隣家で、番頭名義の酒場にして営業を続けた。飲食店の酒の特別枠が有って、毎日ではないが営業した。販売は量が限られ、入荷分に合せて、「一合券」を配っていた。開店日には行列ができた。酒の摘みは、お客さんの中で工面して呉れる人、行列で揉めるとそれを裁く人等がいて助かったようだ。お礼は「券制翼賛会」に排斥され、パーマネットは止めましよう

「の歌があった。又、ビール会社は二社に。あらゆる企業の合併・統合が進み、余剰の人員は、軍需工場に勤めるしかなかった。その政策は恐らくヒトラー(希ムッソリーニ)を手本にしたのだから。」



酒税から話が途中で脱線した。終戦の月、子や孫の時代も平和であれと願いながら、自分だけ、居切れトンボもお許しを!

## 重陽(ちようよう)

月三日

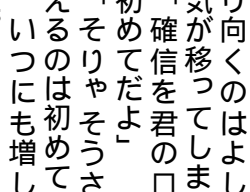


空は西へ西へと自転して地平線上に昼と夜が視線を交えた。彼等の間に昔何があったのかは、短命な人間は言えない。今日から

「打ち解けないなあ」  
「縁側に足を投げ出す僕の背から、眠気の混じる声が沈んだ。後ろをそつと盗み見ると、三、四日は徹夜をしている面が、柱にもたれる体と共に遠くを見ています。しかしこれはマヤカシで、彼は今、自らの頭の中しか見えていない。」  
「書けたか？」  
「まだだ」  
余計な事を聞いてしまった。

## まただが、今夜終わる

月三日



欠伸混じりの声はほのかに踊っている気がする。だが振り向くのはよしておこう、眠気が移ってしまつたら、眠「確信を君の口から聞くのは初めてだよ」  
「そりゃそうさ、今日書き終えるのは初めてだからなあ」  
「いつにも増して、嬉しそうだ。」  
「そんなに今日が特別なのかい？」  
期待を胸に、声を色に込めてみると、  
「ああ、だって今宵は重陽。太陽が一年の内でも最月を美しく見せる日だろ」  
物書きらしい、尤もな回答だった。  
「それは、そうだけど・・・」  
地平線にあつた僕の目は、自分の足下を蹴り始める。すると、ふつと何かか横をかすめた。  
バサッ

「誕生日だぞ、重陽」  
「ああ、なんつて誕生日なんだか。チロリと後ろを見上げると、彼の顔には面白さが半分浮び上っている。」  
「初のプレゼントだ」  
「お陰さまで、僕はこれから仕事だよ」  
僕は縁側から腰を浮かすと、彼に席を譲った。  
他の誰よりも、重くて厚くて大変な誕生日プレゼント。これを採用したかどうかは、また別のお話です。

## 編集後記

今日号とんからりんを作成中

ライターが壊れた。友人に相談、保存データに取出しPCを7から8にアップデート型代えた。  
80才で7ヶ月前、自動車免許更新。新 目は検査15、認知症テストも案々。今更を通り一種を呉れた。それで自毛も自信があった。  
長年付き合ひの友人は、アソクは性格はイラチでチヨと遅いとキボドを叩きすぎるので、速度の早PCに変更を進めたと言ふ。モヤッとした性格が悪いのだ。  
早足、早読、食事を早食いで反論は出来ず、仰せに従つた。だが使い勝手が悪い。8は良いが手の癖は治らない。  
80才で8を手習いと覚悟を決めて作成している。何とか9月1日と思つているが、遅れるかも、お許しを頂きたい。  
「ソノタとの出会いは、シャープM80R、ベッツィン時代から。只、理数系人間でなく、早い変化には着いていけない。今だそんな私にとんからりんは何時まで続けるかと聞かれる。それ20号までお許しを願ひます。  
お付き合いを願ひます。  
新聞風の形のお届けは、毎年3月に年会費をいただいた。サカタの友の会。会員登録は、会員登録は他のサイトもある。だが中々増えない。出来まじら。お知り合ひの方々に誘ひと勝手なお願いがとんからりに。投稿や意見は頂戴したい。最近運載の協力者が増え紙面が向上したと思ひます。  
千年も万年も言いたいことだが金色夜叉(なほ)私はずも言えない。せの百までお願ひします。

「誕生日だぞ、重陽」  
「ああ、なんつて誕生日なんだか。チロリと後ろを見上げると、彼の顔には面白さが半分浮び上っている。」  
「初のプレゼントだ」  
「お陰さまで、僕はこれから仕事だよ」  
僕は縁側から腰を浮かすと、彼に席を譲った。  
他の誰よりも、重くて厚くて大変な誕生日プレゼント。これを採用したかどうかは、また別のお話です。